

網津川水系河川整備基本方針

平成28年3月

熊本県

網津川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針-----	1
(1) 河川及び流域の概要-----	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針-----	2
1) 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する事項-----	2
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項-----	2
3) 河川の維持管理に関する事項-----	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項-----	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項-----	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項-----	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項-----	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項-----	5

《流域参考図》

網津川水系概要図

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 河川及び流域の概要

網津川は、その源を熊本県宇土市の大岳（標高478m）に発し、住宅地、田園地帯を北流し、有明海に注ぐ流域面積11.2km²、幹線流路延長4.045kmの二級河川です。

沿川には、主要地方道である県道宇土不知火線が走り、下流部には国道57号とJR三角線が横切り、JR住吉駅が立地するなど、交通の要衝となっています。

流域内の人口約2,700人のほとんどは下流の国道57号沿い及びその下流に集中しています。

流域の土地利用は、山地・林地が約70%、水田や畑地などが約17%、宅地などが約13%となっており、流域の大部分が山地で果樹園や林業に利用され、下流部の沿川には人家が点在し、平地部は水田として耕作されています。

流域の地形は、上流域が山地地形となり、そこから中流域が谷底平野、扇状地で、下流域は低平地となっています。

流域の地質は、豊肥・瀬戸内火山岩類に属する大岳溶岩類を基盤岩とし、土石流堆積物及び崖錘堆積層が分布しています。

流域の気候は、年平均気温が16～17℃と温暖で、年降水量は2,000mm程度で、6月～7月の梅雨期に集中しています。

① 治水の概要

網津川の治水事業は、河口から国道橋下流までの延長1,200m区間が昭和51年から小規模河川改修事業によって改修され、平成11年からは広域一般河川事業によって改修されていますが、その区間より上流に位置するJR橋（測点1k280）の河積が特に狭小です。このため洪水による浸水被害が、ほぼ毎年のように発生し、中でも昭和54年6月洪水及び昭和57年7月洪水では大きな被害が生じています。

② 利水の概要

網津川の河川水について、中上流域では、かんがい用水として利用されています。

③ 自然環境および河川利用状況

流域に生息する動物は、ヤリタナゴ、アブラボテ、カネヒラ、カゼトゲタナゴ、ハス、メダカ、ムツゴロウ等の魚類、ササゴイ、ミサゴ、ハイタカ、タカブシギ、コシアカツバメ、コサメビタキ等の鳥類が確認されています。

また、下流部にはヨシ群落、マコモ群落、コガマ群落等の抽水植物を中心とした群落や浮葉植物の優占するヒシ群落が分布し、中流、上流部では多年生広葉草原、オオブタ

クサ群落、ススキ群落が多く見られ、水際にミゾソバ群落、キシユウスズメノヒエ群落、ジュズダマ群落、カサスゲ群落等が分布しており、流域は豊かな自然環境に恵まれています。

河川の利用については、散策などが見受けられ、地域住民の水辺空間として親しまれています。

河川の水質は、公共用水域の類型指定は受けていませんが、平成25年度版の宇土市の環境白書によると、平成24年度のJR鉄橋（測点1k280）地点のBOD平均値は1.2mg/Lであり、環境基準A類型（BOD2.0mg/L）に相当します。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

本水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、河川の現状、水害発生の状況、水資源の利用の現況及び河川環境の保全に配慮し、地域の発展に係る諸計画との整合を図り、「治水」、「利水」、「河川環境」との調和をもって、水源から河口まで一貫した計画のもとに整備を図っていくものとします。

1) 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する事項

洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関しては、流域内の資産状況・土地利用状況を勘案し、年超過確率1/30の規模の洪水を安全に流下させることを目標とし、計画的に河川整備を行い、被害の防止を図ります。

あわせて、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過した洪水に対しても被害を最小限に止めるため、河川情報システムを充分活用した防災情報の提供等のソフト対策の充実に努めます。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川水の利用に関しては、適正な利水管理および動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮し、流水の正常な機能を維持するために必要な流量を確保するよう努めます。

河川環境の整備と保全に関しては、自然環境や河川利用の実態の把握に努め、治水・利水面との調和を図り、潤いのある河川空間の整備を図るとともに、河川の有する自然環境の多様性や連続性を確保し、動植物の生息・生育・繁殖環境を考慮した良好な河川空間の創出に努めます。

水質については、河川の利用状況、沿川地域の水利用状況、現状の環境を考慮し、関係機関や地域住民との連携を図りながら、水質の保全に努めます。

3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持・管理に関しては、洪水等による災害の発生の防止又は軽減、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する機能を十分に発揮させるよう適切に行うものとします。

また、網津川の堤防、樋管等の河川管理施設の機能を確保するため、巡視点検、維持補修等を適切に行います。

なお、河川本来の機能及び整備により向上された機能を存続させ、その効用を十分に発揮させ、また、豊かな河川環境を保全し、将来へと良好な形で引き継いでいくためには、地域住民の理解と協力が不可欠です。従って、河川に関する情報を流域住民に幅広く提供すること等により、河川愛護意識の定着と啓発、住民参加による河川の維持・管理を推進します。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量については、河川の規模、流域内の資産・人口等を踏まえ、県内河川とのバランスを考慮して、年超過確率1/30の規模の洪水を検討した結果、基準地点である網津橋あみつばしにおいて140m³/sとします。

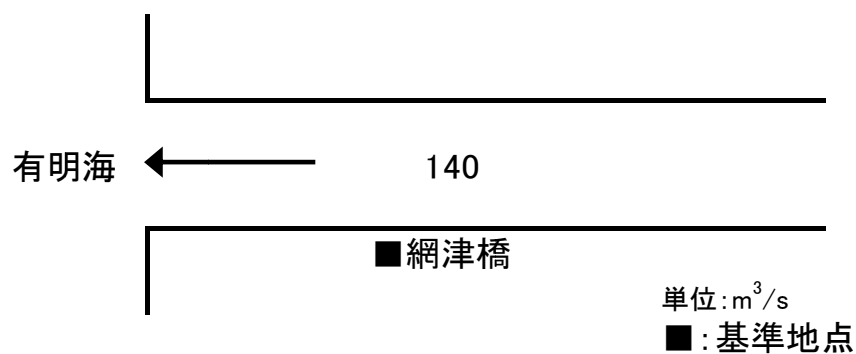
基本高水のピーク流量等の一覧表

(単位:m³/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設等による調節流量	河道への配分流量
網津川	網津橋	140	0	140

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

網津川における計画高水流量は、網津橋地点において140m³/sとします。



網津川 計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

網津川水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次のとおりとします。

主要地点における計画高水位及び計画横断形に係わる川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川幅 (m)	摘要
網津川	網津橋	1.65	2.96	22	基準地点

注) T.P.: 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

網津川における既得水利としては、農業用水としての慣行水利があります。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量は、流水の清潔の保持、動植物の生息・生息場の保全を考慮して、今後必要に応じて調査・検討を行うものとします。

